

# 外来種のカメ防除 市3ため池調査 捕獲7匹 大幅に減少

明石市内のため池や河川で大量繁殖している外来種、ミシシippアカミミガメ(ミドリガメ)の捕獲や除去作業を続けてきた市がこのほど、効果確認のための調査を行った。今回調べた3カ所のため池では、アカミミガメの捕獲数が計7匹と、2年前の調査から大幅に減った。市は「防除作業で一定の効果が出ている」としている。

(藤原昇平)

## 12年度は700匹超 効果確認

市は2011年度から作業を展開。経過観察も行った。市内のため池33カ所でアカミミガメなどの生息実態調査を行った。12年度から生息密度が高い場所に絞った定期的な防除をスタート。12、13年度は各5カ所のアカミミガメが捕獲されたが、防除後は、上池でハスの花が復活するなど生息系が戻る傾向にあるため、調査対象になった。

調査は市職員らが3カ所の池に設置した捕獲専用網を回収。捕獲された63匹のカメのうち、アカミミガメはわずか7匹で、残る56匹はすべてクサガメだった。アカミミガメは須磨海浜水族園(神戸市須磨区)内の淡水カメ保護研究施設「鳥来園」に収容する。



捕獲されたアカミミガメ(右)とクサガメ  
|| 大久保町西島

市環境総務課は「防除の効果もあり、在来種のカメの餌になる水草などが回復しつつある。ただ、一度乱れた生息系がすぐに戻るとは思えない。今後も観察を続けたい」としている。